

《症例報告》

ガリウムシンチグラフィが有用であった膿胸関連リンパ腫の 2 例

白山 裕士* 小泉 満* 山下 孝*

要旨 長期間経過した慢性膿胸，特に人工気胸術が施行された慢性結核性膿胸に悪性リンパ腫が合併しやすいことはよく知られており，膿胸関連リンパ腫 (pyothorax-associated lymphoma; PAL) と名付けられ注目されている．ガリウムシンチグラフィが診断に有用であった PAL の 2 例を経験したので報告する．2 例とも 30 年以上続く慢性膿胸患者で，人工気胸術が施行されていた．CT，MRI では，慢性膿胸の部分と新たに出現したリンパ腫による腫瘍部分の両者が描出されたが，症例 2 では膿胸部と腫瘍部の区別がつきにくかった．ガリウムシンチグラフィでは 2 例とも膿胸部には集積せずに，リンパ腫による腫瘍部に集積した．ガリウムシンチグラフィは存在診断および質的診断に有用であると考えられた．

(核医学 38: 223–228, 2001)